

平成30年度 防府市子ども・子育て会議（第3回）会議録（要旨）

1 日 時	平成31年3月27日（水） 午後1時15分～
2 場 所	防府市役所1号館3階第1会議室
3 出席者	<p>【委員】 松田委員、岩城委員、今川委員、村田委員、池永委員、 脇委員、東福委員、松永委員、山崎委員、高山委員、 宮本委員、柴田委員、正長委員、蓑島委員、吉岡委員 ※欠席 松浦委員、島田委員、大木委員、広石委員</p> <p>【行政推進委員】 工藤健康増進課長</p> <p>【事務局】 林健康福祉部長、藤井健康福祉部次長、 貞平子育て支援課長、原田子育て支援課長補佐、 金子子育て支援係長、西上保育係長</p> <p>【コンサルタント】 (株)サーベイリサーチセンター広島事務所 齋藤主任</p>
4 傍聴者	0名
5 議 題	<p>(1) 第二期防府市子ども・子育て支援事業計画アンケート調査報告について</p> <p>(2) 子どもの生活実態調査報告について</p>

1 開会

2 部長挨拶

- ・本日は、「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」と「子どもの生活実態調査」についての報告であるが、ご感想やご意見など頂戴したい。

3 議事

○ 会議の成立

【事務局】

- ・出席委員15人で総委員数の19人の過半数を超えており、防府市子ども・子育て会議条例第6条3項の規定により、会議の成立を宣言。

- (1) 第二期防府市子ども・子育て支援事業計画アンケート調査報告について
 資料、防府市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果（速報）

を使用し、アンケート結果の内容をコンサルタントから説明。

【委員】

・回収率からアンケート結果としてどのように考えたらよいか。

【コンサルタント】

・郵送調査は高くても40%程度と言われているので十分信頼できる結果である。

【委員】

・利用したい施設は認定こども園が増え、幼稚園については数が低くなっている。一方で幼稚園の数についての満足度が減っているのは矛盾しているのではないか。

【事務局】

・前回調査の時には、認定こども園の数が3園であったが現在は5園になって、今後また2園が移行する予定である。保護者の方は認定こども園、保育所、幼稚園、認可外などの区分についての認識が曖昧なことも原因ではないかと考える。

【コンサルタント】

・利用したいが空きがないという意見も多いので、あわせて考えると数の方も不足していることが補足の情報としてある。

【委員】

・保育園の0、1、2歳は預かりが非常に困難になってきている。認定こども園の0、1、2歳児を預かってもらえる人数の枠は絶対的に少ないので保育園に入れたい人の受け皿になりきれていないのが現実。そこが保育施設に入れたい、施設がもっとほしいという意見に繋がっていくのではないかと。もう少し認定こども園の預かりのキャパを広げてほしい。

【委員】

・空きがないのはとても重要な問題であると思うが、0、1、2歳児とそれ以外の年齢は統計上、区分してデータを取られているか。

【コンサルタント】

・取っている。あわせて分析することも可能であるので報告書には記載していく。

【委員】

・保育施設に入れられない場合、育児休業を2歳まで延長できる制度があるので、今後、保育施設とのマッチングに関する質問も検討していけると良い。

【委員】

・気軽に相談できるのが家族であると思うが、配偶者がとても多く、夫婦が想定されているようだが、外国籍、母子家庭、父子家庭、近くに親族がいな

い方などの数を次回は示していただけるのか。

【事務局】

・配偶者がいるかいないかは拾い上げることはできるが、家族構成のデータはない。

【委員】

・子育て支援策の市民の満足度では、ある程度不平不満がないというのは市として良しと考えるのか。

【事務局】

・難しいところではあるが、「普通」をできるだけ「満足」の方に持っていきたい。

【委員】

・満足度の低いもので子育てについて学べる場とか子育てに困ったときに相談したり情報が得られる場に関する不満が多いが実際そのような窓口はたくさんある。

・認知度と利用経験が必ずしも一致していない。例えば、教育相談電話や教育相談は認知度はあっても、利用している人はほとんどいない。利用経験が少ないのは使い勝手が悪いのではないか。

【事務局】

・まだまだ情報が行き渡っていない状況がある。インターネットから情報収集が増えている傾向から、広くたくさんの方に情報を提供させていただいて利用しやすいように改善していくべきと考えている。

【委員】

・ファミリーサポートセンターの活動内容について、以前は自宅に行って活動していたと思うが今はどうなのか。

【事務局】

・保育施設や学校の放課後の送り迎えの利用が多い傾向であるが、自宅に行く場合もある。

【委員】

・お母さんの負担の改善ができるのではないかとと思うがどうか。

【事務局】

・事前の登録が必要になるが、いざという時に利用できる。まだ認知度が低いのでPRや今後無償化の対象にも含まれるので、より利用しやすい方向にもっていききたい。

【会長】

・次に進んでよろしいか。

【委員一同】

・異議なし

○ 第2期事業計画策定のための考え方について

【事務局】

・資料1～4については第2期事業計画策定における考え方について、国や県が示したものである。新年度はこれらを踏まえながら、計画を策定していく。

【委員】

・子育て短期支援事業の受け皿の対象は海北園のみか。

【事務局】

・ショートステイ、トワライトステイ事業であるので現在は対象施設が海北園さんのみである。

【委員】

・海北園は建て替えをして、今の建物は一時保護所としての機能も強化をするので海北園の大きい建物をどのように使えるか量の見込みの時検討していただけると良い使い方ができると思う。

【委員】

・病児保育事業は都市部の話で山口県では関係ない話ではないのか。

【事務局】

・現実に他市からの利用、他市での利用状況はある。新年度から広域利用について県内で協定を結んで進めていく。

【委員】

・企業主導型保育施設は市の管轄ではなく、現実的には内容がわからない中で、地域枠の活用を市としてはどのように考えているのか。

【事務局】

・防府市にも企業主導型保育施設はいくつかある。積極的な活用までの認識は持っておらず認可保育所や認定こども園を基本的に優先したいと考えている。

【会長】

・次に進んでよろしいか。

【委員一同】

・異議なし。

(2) 子どもの生活実態調査について

資料5 子どもの生活実態調査の報告（概要）についてを使用し、アンケート結果の内容を事務局から説明。

【委員】

・最近こども食堂があちこちあるが、あまり食べられない子はいないと聞い

ている。朝食の欠食は若干、生活困窮世帯の方が高いがそのあたりの感覚はどうか。

【事務局】

・防府市では現在海北園さんが地域食堂として地域に開かれた場を提供されている。また、丸久さんがフードバンクをされていて社会福祉協議会を通じて家庭に届ける仕組みになっている。こども食堂は課題の一つと認識している。山口県でもこども食堂の募集をしていて県内に広めていこうとしている。社会福祉協議会とも協議はしたことはあるが市が動くのはなかなか難しいので、民間やNPOにやっていただきたいと考えている。

【委員】

・活動しているところは結構あるが実態をはっきり掴んでいない。動くのは各地域などでやっていったら良い。繋げていくのが社会福祉協議会や市の役割であると思う。理想としては学校区ごとにあると良い。情報をしっかり掴んで広げて行ってほしい。

【委員】

・社会福祉協議会はフードバンク、寄付でやっている。生活困窮の方へメインで、持っていつている。今日の晩、次の日、ごはんが食べられない方が結構いる。こども食堂については、いずれは海北園さんへ伺ったり山口の方へ聞いて進めていくということで検討中である。

【委員】

・親自身の状況について母子世帯数だけは教えてほしい。

【事務局】

・数の把握ができるか、委託業者に確認しないとわからない。

【会長】

・次に進んでよろしいか。

【委員一同】

・異議なし。

○ その他

【委員】

・育児休業中の方が職場復帰の申請をする場合、空きがなければ育児休業の延長ができるが、切実に入りたいのか、空きがなければ2歳までゆっくりしたいのか他市ではアンケートをとっていると聞いたことがある。枠が少ないということであるが、本当に必要な方には入っていただきたいが防府市は実施しているのか。

【事務局】

・ニーズに合ったやり方はしていないが、必要があれば参考にしながら関係

機関に相談しながら、検討していく。

【委員】

・子ども子育て会議の役割について、行政からのプランに対して答えるだけではなく、子ども子育ての分野に関して意見具申できる場の会議組織に変わっていくことを今後の課題として意見する。

【委員】

・気になったのは気軽に相談できる人の中に職場の人が増加していることで、身近な人に頼ることの重要性を感じた。

4 閉会

【事務局】

- ・長時間にわたる審議、検討に感謝申し上げる。
- ・次回開催予定については、正式に決まり次第、案内を差し上げる。